

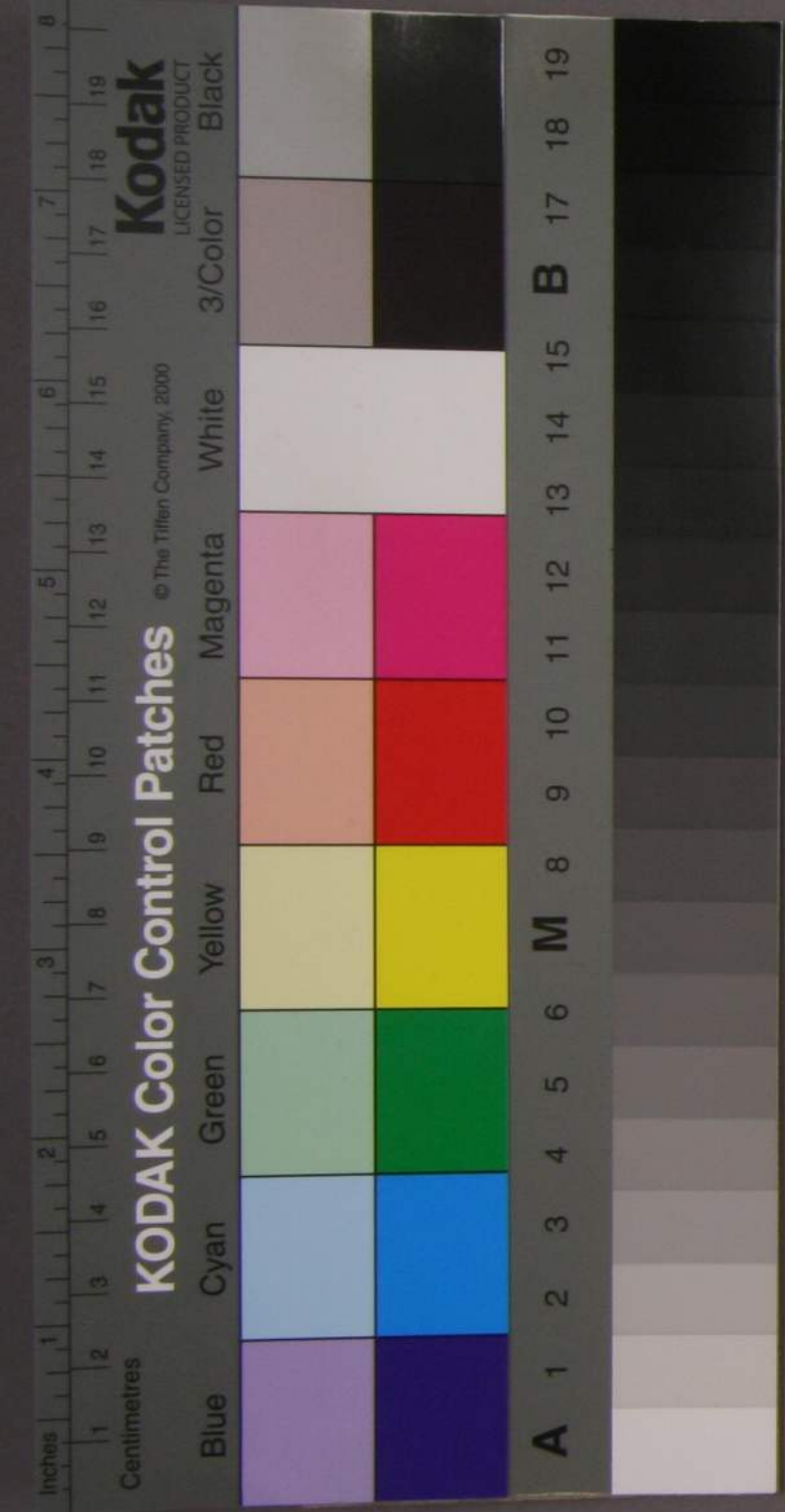
414  
A1259



日本ノ勞役

讀考察スルニ余輩ハ夫人カ日本ニ関シタル所見ヲ閱  
「ベルツ」夫人カ日本ニ関シタル所見ヲ閱  
生活ノ景況ニ関セシ其預見ニ服スル能ハス大  
ニ其意見ヲ異ニセサルヲ得サルモノアリ同氏  
曰日本勞役者ハ蒙昧野蠻ニシテ現在其勞役々  
ル始終間断ナク其困苦ヲ受ケルモ之ヲ免ル  
、ノ法ヲ知ラス不潔ノ居宅ニ住シ然リ而シテ  
其身体ハ疲勞貧窮ヨリ生スル疾病ノ犯ス所ト  
ナレリ之ヲ要スルニ日本勞役者ハ世界人間

正十一年四月  
限候爵郵寄贈



中竅モ憐ムヘキ不幸ノ人民ナリト當時余ハ同  
氏ノ如ク日々華硯ニ從事シテ世事ノ動静ヲ熟  
察スルニ暇ナキモノハ農業社會ノ生活ノ現状  
ニ付キ偏頗ナク公平ノ感覺思想ヲ生スル能ハ  
サルヘキヲ論シ又々如何ナル場合ニ於テモ日  
本北部荒漠ノ地ニ住スル人民ハ以テ一般日本  
人民ノ例ト為スニ足ラサルヲ論セリ  
余ノ所見ニ依レハ日本勞役者ノ真正ノ住所ハ  
則チ豊饒ノ平野ニシテ生糸茶等ノ産出スルノ  
地ナリ然ラハ則チ之レカ評ヲ下スモノ未タ遽

ニ荒漠不毛ノ地ヲ以テ目スヘカラサルナリ按  
スルニ日本内地ノ農民ヲ措キ北海道ノ農民ヲ  
指シテ日本農民ト概言スヘカラサルヲ云フナ  
リ願フニ日本勞役者ハ該記者ノ論スルカ如ク  
不幸ノ人民ニ非ラスシテ其位地ハ西洋各國ノ  
人民ト同等比肩スルヲ得ヘキモノナリ  
實ニ余輩カ此等ノ説ハ殊ニ該疑問ノ一方ノミ  
ヲ研究スルヨリ得ルモノニ非ラスシテ數年間  
普ク目撃實驗セシヨリ得ルモノナリ故ニ余輩  
ハ幸ニシテ日本駐劄米國ノ總領事「ファン、ビューーレ

シ氏カ近頃此等新聞紙上ニ登録セラレタル報  
告ノ日本勞役云々ノ文ヲ見テ以テ余輩所見ノ  
非ナラサルヲ知ルヲ喜フナリ

此ノ米國總領事ノ貴重ナル報告ハ余輩常ニ讀  
ム所ノ英國領事及ヒ書記官ノ制シタル報告ト  
ハ所々相違ノ點多キヲ覺ヘタリ生糸ニ付テ「ア  
ダムス」氏ノ報告ヲ除クノ外ハ官報ノ補助ヲ受  
ケ且ツ目撃實試ノ確實ナルモノト見認メテ余  
輩ノ参考ニ供スヘキモノハ獨リ「デーレン」氏ノ  
報告アルヲ以テ其報告中各種ノ日本勞役者ノ習

俗職業苦樂等ニ付テ論スル所ノモノハ徒ニ書  
籍報告類ニ就テ見解ヲ下セシモノニ非ラサル  
ナリ且ツ是レ全ク該人民ノ生活ノ現状ヲ目撃  
實試シ始テ其見解ヲ下シ得ルモノニシテ獨リ  
日本ノ官報ヲ集覽對比シテ得タルモノニ非ラ  
サルナリ然レモ此ノ報告ハ二年以前在歐米國  
領事カ其國務省ノ要求ニ應シ制定セシ報告ニ  
倣フテ制定セシモノ、如シ  
夫レ日本ト歐洲ト其国情ヲ異ニスルモノ多分  
ナルカ故ニ歐洲ニ於テハ記載説明ヲ要セサル

「ヲモ日本ニ於テハ記載説明ヲ為サ、ルヲ得  
サルモ、アリ如何上、ハ歐洲ノ報告ニ於テ  
ハ記載ヲ要セサル勞役者ノ状態ニ於ケル風土、  
地質、氣候、法律、宗教、政体、教育、修身、財政、運輸ノ方  
法等皆ナ勞役者ノ給金及ヒ生計ノ景況等、如  
ク勞役者ノ状態上ニ直接或ハ間接ノ關係ヲ有  
スレハナリ

抑モ王政維新以來日本カ日本農夫ノ地位ニ非  
常ノ變動ヲ起セシハ露國ニ於テ「アレキサンド  
ル帝カ奴隸ヲ解放セシ美舉ト雖モ敢テ之レニ

加フルナレ

總領事「ファン、ブーレン」氏カ記セシカ如ク二十年  
以前ニ在テハ日本農夫ハ實際上其出生ノ土地  
ニ土著シテ他國他郷ニ移住スルヲ得サリシ  
蓋シ名義上ニ於テハ随意ニ移住スルヲ得ヘシ  
ト雖モ實際上地方ノ習俗成規ノ束縛スル所ト  
ナリテ此ノ自由ヲ實施スルヲ得サリシ  
當時日本ノ農夫タルヤ租税ノ多寡ハ其領主隨  
意ノ徵收ヲ受ケ其他諸立ノ費用ヲ要スルコト  
ル片ハ又々之レヲ納メサルヲ得サリシ且ツ又

タ生命ト雖氏其領主ノ主權ニ屬セリ故ニ領主  
ノ虐政苛法ヲ恣ニスルハ當テ之レヲ防禦スル  
ハ竹鎗薙旗ヲ訴フルノ外他ニ仕方ナカリシナ  
リ然リ而シテ此ノ一揆ノ騷擾タルヤ決シテ稀  
ナルトニハアラサリシナリ如何ントナレハ日  
本農夫ハ人間中竅モ順良ニシテ忍耐力ニ篤キ  
モノナリト雖氏若シ一端悲憤慷慨ノ極ニ際會  
スレハ忽チ一大強敵トナルニ至ルナリ右ハ近  
來余輩ノ數々目撃スル所ナリ即チ三年前地租  
ノ三分ナルモノヲ二分五厘トナセシ勅諭アリ

シモ地方處々ニ於テ彼ノ竹鎗薙旗ノ結果ニ出  
ツルヲ信スルナリ  
當今ニ到リテハ日本ニ於テ土地ノ所有權ヲ農  
人ニ付與スル一般ノ定則ヲ設ケ随意ニ其所有  
ノ地ヲ耕シ又々随意ニ他郷ニ移住スルヲ得タ  
リ且ツ定則ノ國稅及地方稅ヲ納ハル片ハ最早  
此外ニ徵收セラレハノ憂ナキニ及ヘリ  
然リ而シテ此等農夫ノ租稅ハ自餘ノ職業ニ課  
スルモノニ比スレハ實ニ重大ナリ一千八百八  
十年乃至八十一年(即チ一千八百八十年ノ會計

年度ナリ間ノ國稅ノ豫算總額五千九百九十三  
万三千五百七圓ノ中地稅ノミニテ四千一百九  
十萬一千四百四十一圓ノ巨額ヲ占メタリ即チ  
日本歲入全額ノ七割ニ當レリ而カモ現今租稅  
徵收ノ方法ハ漸々此不平均ヲ減少セント欲ス  
ルノ點ニ向ケハ數年ヲ出スシテ此租稅徵收平  
均ヲ得テ大ニ農夫ノ負擔ヲ輕減スルヲ得ルニ  
至ルヘシ又々教育、道路、橋梁、堤防等ノ為ニ要ス  
ル地方稅中其多分ハ勿論農夫ノ負擔スル所タ  
リ

總領事「ハアイン、ブーレン」氏ハ右ノ地方稅額ヲ五厘  
位ナルヘシト論セシモ余輩ノ考フル所ニテハ  
恐クハ此上ニ出ルナルヘシ如何トナレハ殊ニ  
今日ノ豫算中ニハ地方廳署建築修繕ノ如キ最  
モ巨多ノ金額ヲ地方稅ヨリ支辨スルト定メ  
タレハナリ  
縱ヘ右等課稅ノ「如何ニアルニモセヨ今ヤ  
日本ノ農土ノ觀察スルニ其十年前ノ昔ニ在  
テハ奴隸ノ苦海ニ沈淪シシモ今日ハ全ク不羈  
自由ノ良民トナリタリ而シテ此ノ目的ハ初メ

ヨリ執政者カ農夫タルモノ、奴隸ノ状態ナルヲ哀憐シ之レテ非ナリシテ其不羈自由ヲ謀リタルモノニ非ラスシテ偶然ニ此ニ至リシナリ蓋シ維新ノ初ニ富テ要路人カ農夫ヲ視ルハ猶ホ旧時ノ諸侯ニ異ナラサリシナリ故ニ今日農夫ノ不羈自由ヲ得タルハ要路人カ封建制度ヲ廢止シ中央集権ノ最モ勢力ヲ有スル政府ヲ設立セント企圖シタル政略ノ大結果ニ附屬シタル一小結果ニ過キサルナリ夫レ右ノ變動ヨリシテ農夫カ第一變更ヲ受ケ

シハ從來其領主ニ納メタル專断壓抑ノ租稅ヲ免カレ中央政府ニ納ムルヲニナリタルヲ是ナリ其租稅額ハ一定ニ出テ、且ツ昔日ニ比スレハ較ヤ寬ナリ又タ土地所有法ニ關シタル改正モ亦タ頗ル緊要ナリシ此ノ改正ニ付テハ政府ノ政策ヨリハ寧ロ一時政府財政ノ困難ヨリ得タル僥倖ト謂ツヘシ夫レ日本全土ハ理論上ニ於テ皇帝陛下ノ所有ニ屬セリ而シテ余輩ノ聞ク所ニ據レ日本ニ於テ往古土地所有ノ法ハ土地ヲ九分按

太  
女  
宮

スルニ是レ即チ古昔ノ井田法ヲ云フナリシテ  
農夫ヲシテ墾ク之レヲ耕耘セシメ而シテ其落  
九ノ部分ヨリ生スル收納高ヲ以テ他ノ八部ヲ  
有スル為メノ租稅トセリ  
然レモ維新後一二年ニ於テ政府農夫ヲシテ總  
テ其耕耘地ヲ所有スル為ニ其地券ヲ買收セシ  
メタリ當時此買收ノ事ニ付テハ全國一般ノ騷  
擾ヲ招ケリ如何トナレハ從來農夫ハ殆シト四  
百年間其土地ヲ所有シ未タ此ノ如キ地券ヲ有  
セサルカ為ニ右ノ如ク騷擾ヲ起シナリ

顧フニ石ノ地券ニ關シ課スル所ノ課金ハ實際  
其土地ノ代金トシテ徵收セシニ非ラスシテ全  
ク地券書認メ代金ノ性質ヲ以テ徵收セシモノ  
、如シ是レ實ニ然ルヘキノ理由ナリ如何トナ  
レハ若シ政府土地ヲ賣却シ其代價ヲ徵收セシ  
トアラハ今日此ノ如ク財政困難ノトハ非ナリ  
ヘシト信スルナリ  
余輩右ニ記載セシナ如ク日本農夫今日ノ幸福  
ハ昔日ニ比スレハ霄壤ニ差アリト雖モ今日農  
夫中多クハ昔時ヲ慕フノ情アルハ亦タ以テ人



性旧ヲ慕フノ奇怪ナルヲ觀ルニ定ルナリ彼等  
乃チ曰ク今日ハ收納ノ豐凶ニ拘ハラズ土地  
旱ノ被害ニ拘ハラズ必ラス定規ノ租稅ヲ納メ  
サルヲ得ス然レモ音日ニ於テハ領主ヨリ年ノ  
豐凶ニ拘ハラズ縱ヒ些少ナルモ其保護ヲ受ケ  
タルカ故ニ常ニ飢寒ノ憂ナカリシナリト右ノ  
如キ不滿ヲ唱フルモノハ獨リ農夫ニ止マラス  
シテ日本全國何レノ地方ニテモ士工商皆ナリ  
抵同様ノ状態ナリシ  
然リト雖モ昔日殊ニ農夫ノ身上ニ蒙リタル輕

蔑壓制ノ羈絆ハ總テ悉ク今日之ヲ一掃スル  
トヲ得タルニ非スヤ又々今日日本農夫ハ佛國  
白耳義ノ農夫ト同等ノ地位ヲ占メ又々自家耕  
耘ノ地所ノ所有者ナルヲ得タリ又々多クノ場  
合ニ於テ茶生糸地方ニ於ケルカ如キハ方ニ繁  
榮ニ赴カシトスルノ好機會ヲ有スルノミナラ  
ズ現ニ富裕ノ身分トナレリ是レ皮想論者ト雖  
モ能ク了スルヲ得ヘキ所ナリ  
日本農夫カ今日中央政府設立ニ由テ得ル所  
利益ハ獨リ上文記載スル所ニ止マラス猶ホ二

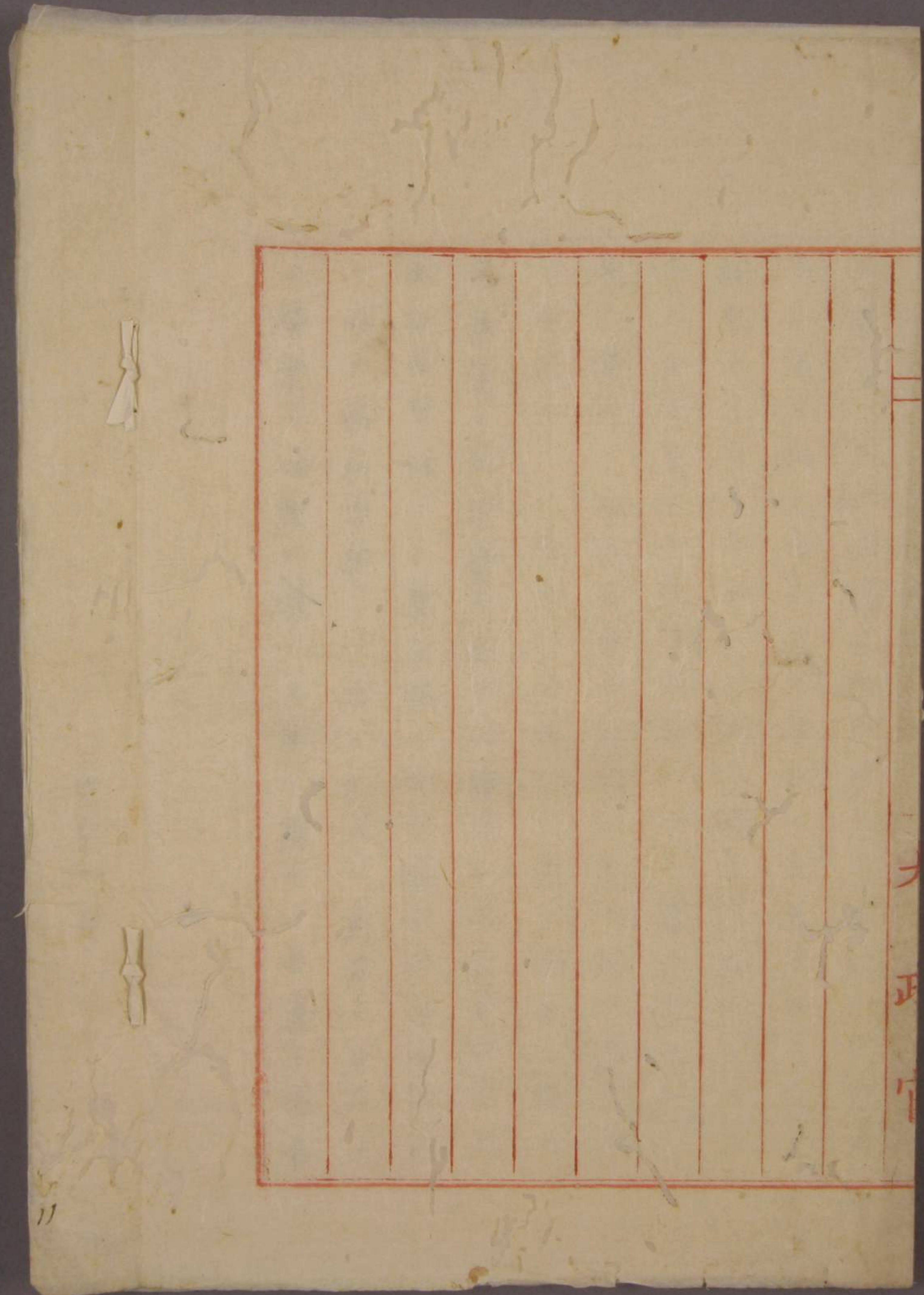
年以前ニ許可ニ成リタル地方廳ノ重要ナル方  
法ニ依リ以テ其地方官吏ノ施政ヲ左右スルノ  
得ルニ至ル。此事タルヤ他日國會開設ノ萌芽  
タルヲ推知スヘキナリ  
是レニ由テ之レヲ觀レハ日本農夫ノ位置タル  
之レヲ十年ノ既往ニ比スレハ實ニ霄壤ノ差アリ  
ルヲ覺フナリ然ラハ則チ今日ニ至リテ日本農  
夫カ獨リ要スヘキ所ハ道路ヲ平坦ニシ鐵道線  
ヲ擴張シ運賃低價ノ漁船ヲ得テ以テ其物産ヲ  
市場ニ運搬スルノ便ヲ得ルニ在ルノミナリ然

ル片ハ則チ其財産ヲ増殖シ從テ日本全國ノ富  
ヲ十倍スルニ至ルヘシ  
余輩日本勞役ノ最要點タル此事件ニ関シ右ノ  
如ク多クノ論辨ヲ為セシカ故ニ總領事「ファン、ブ  
ーレン」氏ノ報告書中ノ事件ニ就テ最早此他ニ  
云フヘキヲ多カラサルニ及ヘリ然レモ尚ホ日  
本人口ノ統計ニ関シテ頗フル奇ニシテ著明ナ  
ルモノニ點アリ即チ全國人口中高人ハ六分工  
人ハ三分ナルニ農夫ハ凡ソハ割五分ノ多キナ  
至ルト女子ニ比シテ男子ノ多キナルヲ是ナ

リ過キシ二十年間日本ハ殆ント内乱ノ状態ナ  
リシ是レ此ノ奇ニシテ著明ナル差ヲシテ竅ニ  
赫然ナラシハル所リ一大原因ナリ按スルニ男  
子ノ女子ヨリモ竅モ多数ナルニ驚クナラン  
我カ讀者ハ右報告書中此他利害ニ関スル点  
ヲ癸見スヘシ然レ氏余輩ハ余輩ノ鑑定シ得ル  
所ヲ以テ觀レハ竅早此報告書ニ付テ其計筭説  
明ノ精實ニシテ其立論ノ公平無私ナルヲ評ス  
ルヨリ外ニ言フヘキモノナキヲ覺フナリ之レ  
ヲ要スルニ此ノ報告ハ竅モ著シク日本ニ関ス

ル余輩ノ知識ヲ増シタリト謂フヘシ蓋シ右輩  
ノ如キ吟味穿鑿ハ一般ニ世人ノ注意ノ及ハサ  
ル所ナリ好シヤ其注意スルヲ得ルモ右輩ノ如  
ク精密ナル穿鑿ヲ為スハ能ハサル所ナリ

太  
女  
宮



天  
正  
丁